

業 務 速 報

NO. 1299
2022. 3. 28
J R 東海労働組合
発行 木下 和樹
編集 斉藤 孝紀

2022年度賃金引き上げ夏季手当第7回団体交渉 物価上昇！賃上げを再要求！！ 社員の苦労を無視して、リニア建設続行！

本部は3月25日、「2022年度賃金引き上げ、夏季手当等の再申し入れ」(『申第28号』)に基づく団体交渉を開催し、ベースアップ6,000円、夏季手当3.5ヶ月、専任社員への50,000円増支給などについて、改めて会社に満額回答を求めました。また前段に、エムティーへ出向中の組合員が出向先企業からJR本体に戻って欲しいと会社に伝えた件について、元職場に戻すよう要求しました。

会社は、現場の社員の苦労よりもリニア建設を優先し、それどころか、昨年より大幅に赤字額が減少したにも関わらず、赤字を盾として、ベースアップゼロや低額ボーナス回答が当たり前の姿勢に終始しました。

本部は、「コロナ禍・ウクライナ情勢の悪化等で物価が上がり、負担が増える中で変異種への感染に怯えながら苦労して支えてきた。その苦労に応える必要がある。リニアを中止とすれば満額支給できる。」などと会社を追及しましたが、会社の姿勢を崩すことはできず、団体交渉は決裂となりました。この結果について本部は持ち帰り検討としました。

<回答>

Q. 賃金引き上げ回答を撤回し、基本給を一律6,000円引き上げること。

A. 令和4年度新賃金については、3月18日に回答した通りであり、これを撤回する考えはない。

Q. 定期昇給については、現等級経過年数による基準昇給額の減額を撤廃すること。また、基準昇給額を一律1,500円とし、乗数4の定期昇給を行うこと。

A. 令和4年度新賃金については、3月18日に回答した通りである。

Q. 2022年度夏季手当は回答を撤回し、基準内賃金と補償措置額の3.5ヶ月分を支給すること。また、専任社員にはプラス50,000円を支給すること。

A. 令和4年度新賃金については、3月18日に回答した通りであり、これを撤回する考えはない。

<主なやり取り>

組合：エムティーへ出向している組合員に対して、エムティーから本人にJRに戻って欲しいと言われているが、エムティー副社長が富岡・足立代理に対して、出向を取り消してJRに戻して欲しいと伝えていると分かった。会社としては持ち帰り検討するとの状況であると聞いている。元職場に戻すように要求し、今後申し入れしていく。

組合：内部留保もある。高額な役員報酬もある。リニア建設も続行されており、東海労の要求を出せるだけの体力はある。再考・撤回を求める。

会社：足下の輸送量はそこまで上がっていない。当初想定していた8割戻るといふ所までは上がっていない。社員の生活が苦しいとは聞いているが、18日に提示したのを見直す考えはない。

組合：3月23日時点での乗車率は52%と戻っており、蔓延防止等重点措置は解除され、各都道府県の宿泊割引のキャンペーンは徐々に再開されており、回復基調である。これを踏まえて再考を求める。

会社：足下の話であり、次の年末手当に関わる話だと思う。

組合：コロナ禍にウクライナ情勢悪化による物価上昇、更に円安の影響による更なる物価上昇もある。生活はより厳しさを増している。社員を救うためにも再考を求める。

会社：今の半期を振り返り、足下の状況を見て、現状これではないかと判断している。

組合：昨年の第3四半期の状況と今年度とでは桁が違いくらい改善している。これで夏期手当2.2ヶ月はおかしい。

会社：赤字なのでこれ以上出せない。黒字になればこれを上回る議論ができる。

組合：現状2.2ヶ月が安定的支給ベースとは思っていないだろうな。

会社：思っていない。

組合：去年の年末手当の議論で、安定的支給ベースの話で、ちょっとの赤字ではなくて1000億の赤字となっていてレベルが違っていると話していた。赤字の幅が大きいからと言っていた。

会社：減収という意味で言った。そのような意味で言っていない。黒字の中である程度の幅で下がっても安定的支給ベースで議論すると言った。安定的支給ベースはちょっと上がっても下がっても同じような数字で議論するという話。現状このベースの話にはならない。

組合：仮に1億程度の黒字であったとしても、安定的支給ベースは出ないのか。

会社：その時にしないと議論はできない。少なくとも安定的支給ベースの水

準ではないといけない。その時に議論したい。赤字でも2. 2ヶ月出している。

組合：赤字でも大丈夫なように安定的支給ベースを作ったんだ。夏期手当2. 7ヶ月は最低ラインだ。

会社：そうではない。

組合：去年と比べれば、かなり改善しており納得できない。

会社：3Qは上がっているが、4Qがかなり下がっている。それを含めて考えている。

組合：現状連結決算で、123億程度の赤字で、4Qは300億程度の赤字が予想されている。この回復基調の状況を考えれば300億には届かないだろう。新幹線は4割になればトントンだろう。

会社：分からない。年末手当において、そこは年度の決算と2Q決算までを見て議論していく。

組合：ベアについて、JR北海道もJR貨物も頑張って支給している。東海は出さないのか。

会社：各社考え方があると思う。見てはいるが、他社がやっているからとは考えていない。

組合：ベア0が連続している中、10%返納しているとは言え高額な役員報酬が支給され続けている。

会社：減額の幅が社員よりは大きいと思う。

組合：支給額そのものが多額なのだから、10%返納しても相当な額が手元に入っている。

会社：社員は給料に関しては影響がない。役員はベースの所で返納している。

組合：社員ばかりが痛みを追っている！

会社：その考えは違うと思う。

組合：社員と役員では額が違う。

会社：社員より減額の幅は大きい。

組合：たかが10%かよという気持ちだ。社員とすれば怒り心頭だ。社員ばかりが負担を追わされているという認識だ。

会社：そのような認識ではない。

組合：社員は4期連続で負担している。また不安定支給ベースかよと思っている。

会社：2. 2ヶ月支給している。

組合：社員としてもこの中で、効率化が進んでいる。労働の密度が上がり、負担は増えている。再考を求める。

会社：変える考えはない。

組合：ユニオンに回答されている事で、病院での医療従事者に2万円支給と出していた。この間慰労金支給をと要求してきたが、窓口回答ではそのような考えは無いとの回答であった。なぜ医療従事者に対しての回答がなかった

のか。

会社：制度上異なるものだ。聞かれれば答えていた。

組合：慰労金じゃないか。なぜ回答しなかったのか。組合によって回答が違うじゃないか。

会社：別の仕組みとしてのものだ。

組合：新幹線通勤手当の拡大も回答されていない。共通の話だ。

会社：そのように考えているとの段階だ。決まればお知らせする。

組合：医療従事者についてもまだ決定されていないのか。

会社：いつ支給となるか分からない。国の制度としてあるもので、やらないのかと聞かれた所で、考えていると回答した。

組合：国の制度で補助があるのか。

会社：コロナ受け入れ病床において、対応した従事者において補助があるものだ。

組合：窓口回答でそう説明しろ。

会社：原資が違う物だ。違う物である。隠していた訳ではない。

組合：在宅勤務についても説明がなかった。

会社：協約改訂の場面で説明している。

組合：ユニオンとで団体交渉の回数に相違がある。3月18日場面においてユニオンが1回多いじゃないか。何故なのか。

会社：意識していなかった。

組合：あらかじめ計画的に決めてあったじゃないか。

会社：結果的に再申し入れを頂いて、やっている。

組合：再申し入れは別の話だ。回答までの回数が何故違うのか。慰労金の回答の事を含め、不当労働行為だ。

会社：ちゃんと議論はお互いにしている。

組合：議論はしたが、回数が違う。

会社：分からない。非常に充実した内容でやっている。中身で見て欲しい。時間を割いて誠心誠意やっている。

組合：一回増えれば、さらに時間に余裕を持って臨める。

会社：トータルの時間としては十分にやっている。全体で見て欲しい。他労組では40分で終わる時もある。もうないですかとこちらから聞くこともある。

組合：なぜ一回多いのかと聞いている。

会社：トータルで十分やっている。中身で評価して欲しい。

組合：中身で評価するも何も、評価できる事が一つもない。

会社：ちゃんとやっている。中身でやっている。

組合：評価できる回答なんて無かった。中身はない。

会社：中身で評価して欲しい。必要な議論を重ねている。

組合：統一すれば良いじゃないか。何故回数に差があるのか。差別されている。

会社：毎年同じ回数でやっている。中身の量で回数を判断している。

組合：ならば、申し入れの量を増やすぞ。

会社：分散することもあると思う。今回しっかりやってきた。必要な議論は行えた。ご意見としては聞く。

組合：会社は、定昇の乗数4は確保したと胸を張って言うが、多くの組合員が400円となっている。低減していくのはおかしい。世の中の水準とすればかなり低い。

会社：好調な業界と比べれば差がある。

組合：昇給の平均額は分かるのか。

会社：システムで自動的に行うので、分からない。分からないし、明らかにする必要はない。

組合：来年度のリニアの投資額が3750億円となっている。昨年度の4300億円と比較すると下がっている。なぜ下がったのか。

会社：分からない。新賃金とは関係ない。

組合：関係してくる。この額が増えてれば賃上げどころではなくなる。リニアで多額の費用が必要となり、経営の足を引っ張っている。そのような認識は持っているのか。

会社：そのような認識はない。

組合：リニアを中止して、賃上げに回せ。リニアが無ければ賞与にも回せるだろう。

会社：分からない。リニアが無ければ、また別の投資をするだろう。あくまでも中央新幹線は将来への投資だ。

組合：それは将来のためにならないから言っている。本当はそう思っているだろう。

会社：そうは思っていない。

組合：現状離職者は増えていないか。

会社：少ない方ではある。

組合：賃金弾めば離職者は更に減るだろう。会社側委員ですら退職者が出ている。経営破綻を危惧して辞めたのじゃないか。

会社：個別の話はしない。

組合：仮に黒字がでたら、この先どうするのか。

会社：期末手当の議論になる。しっかり議論していく。

組合：ベアゼロで、安定的支給ベースも当初の会社の説明とは異なる状況だ。再考を求める。専任社員に対しても何もない。

会社：今回については変える気はない。

組合：ゼロ回答である。対立だ。妥結しないことも含めて、いつまでに返事となるのか。

会社：賃金の話なので3月中に。

組合：賞与もか。

会社：そうだ。

組合：なぜ一緒なのか。賃金と賞与は別の話だろう。

会社：新賃金と合わせている。3月中に頂きたい。申し入れは一緒に貰っている。

組合：妥結に関してはそれぞれ別だ。

会社：一緒に回答している。

組合：妥結をしなかったら、支給は遅れるのか。

会社：分からない。

組合：申し入れが別なら、それぞれで妥結できるのか。

会社：一緒に回答する。

組合：賞与に関しては時間に余裕がある。さらに議論したい。

会社：しっかり議論した。

組合：賞与の支給にあたって準備が間に合わないのか。

会社：3月までに回答が欲しい。回答が遅れるなら相談して欲しい。

組合：大対立だ。持ち帰り検討する。

以 上